



特
別
展

生と死 の間で

ホロコーストとユダヤ人救済の物語

Between Life and Death
Stories of Rescue During the Holocaust

2021 1月19日(火) ~

(令和3年) 3月30日(火)

ピースおおさか1階 特別展示室

開館時間

午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日

毎週月曜日、2/2、2/12、2/24、3/2、3/23

共催

European Network Remembrance and Solidarity
(記憶と連帯の欧州ネットワーク)

ピースおおさか

(公益財団法人 大阪国際平和センター)

潜伏中のユダヤ人とガヴリフ一家、ミンスク・マゾヴィエツキに近い
森林官の事務所の前にて、1942年。

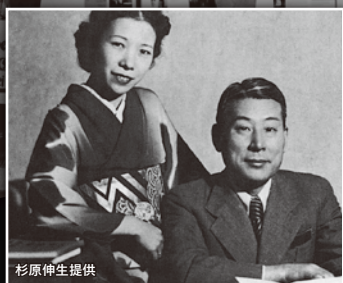
ポーランド・ユダヤ人歴史博物館 POLIN、ヤドヴィガ・ガヴリフ提供

生と死のはざままで

第二次世界大戦中、ナチス・ドイツによる迫害で多くのユダヤ人が犠牲になりました。この迫害の中で、危険を冒しながらもユダヤ人に手を差し伸べた人々がありました。そのおかげで生き残ることができたユダヤ人もいます。本展示では12か国のヨーロッパの国々におけるユダヤ人救済の物語を紹介します。これらの物語は、救済者と生存者がいかにして生き延びたのかを、彼らが直面した歴史的背景を踏まえ、その勇気や強く生きる意志を伝えています。展示の中には、杉原千畝氏^{*}によって救われた人の証言も含まれています。

ホロコーストにおける救済者と生存者、両者の体験を通して、彼らが「生と死」の狭間にいた状況を感じ取ることで、戦争の悲惨さと平和の尊さを考える機会とします。

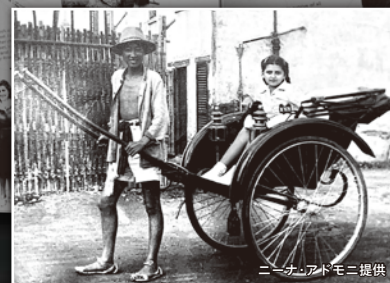
^{*}第二次世界大戦中、日本領事館領事代理として赴任していたリトアニアのカウナスで、ナチス・ドイツによって迫害されていた多くのユダヤ人にビザを発給し、彼らの亡命を手助けしたことで知られています。



杉原千畝と妻の幸子、ルーマニアにて、1941年頃。杉原はユダヤ人難民に日本への通過ビザを数千枚発行した。



ニーナ・ヴェルタンス、両親とともに、ワルシャワにて、1938年。1939年9月に一家は、ワルシャワを離れてリトアニアへ行き、そこで杉原千畝よりビザを得て、日本へ向かった。



人力車でボースをとるニーナ、上海にて、1943年頃。日本で半年過ごした後、当時、国際都市であった上海へ向かった。

記憶と連帯の欧州ネットワーク

(ENRS: European Network Remembrance and Solidarity)

「記憶と連帯の欧州ネットワーク」は、ドイツ、ハンガリー、ポーランド、スロバキア、ルーマニア(2014年に加盟)の政府機関によって2005年に創設されました。20世紀ヨーロッパにおける歴史の記憶と文化の発展を支援することを目的として、展示会や出版物の発行、ワークショップ、研究訪問、会議に至るまで幅広いプロジェクトを企画しています。今現在は、上記5か国に加え、他のヨーロッパ諸国もオブザーバーなどとして参画しています。本部はワルシャワにあります。

▶来館の際は必ずマスクをご着用ください。

また、体調不良の方のご来館はお断りさせていただきます。

詳しくは当館HPをご覧ください。

〒540-0002 大阪市中央区大阪城2-1

TEL 06-6947-7208 FAX 06-6943-6080

JR森ノ宮駅(北出口)・Osaka Metro森ノ宮駅(1番出口)



<http://www.peace-osaka.or.jp>



人々が選んだ道とは